

経済レポート

2016年9月の鉱工業生産指数の結果

～9月の鉱工業生産指数は前月比横ばい～

調査部 主任研究員 中田一良

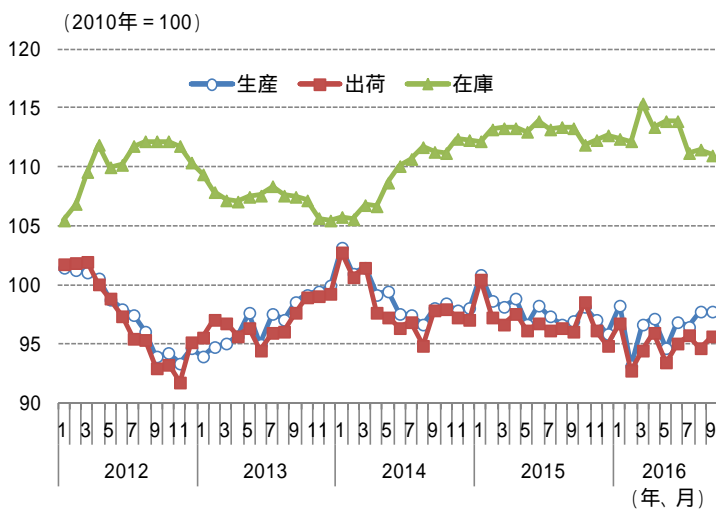
9月の鉱工業生産指数の結果

9月の鉱工業生産指数は、前月比横ばいだった(図表1)。製造工業生産予測調査では9月は前月比+2.2%と上昇が見込まれていたものの、それを大きく下回る結果となった。出荷指数は、前月比+1.1%と2か月ぶりに上昇した。在庫指数は前月比-0.4%と2か月ぶりに低下した。なお、7～9月期の鉱工業生産指数は、4月に発生した熊本地震による操業停止からの挽回生産の影響もあって、前期比+1.1%となり、2四半期連続で上昇した。

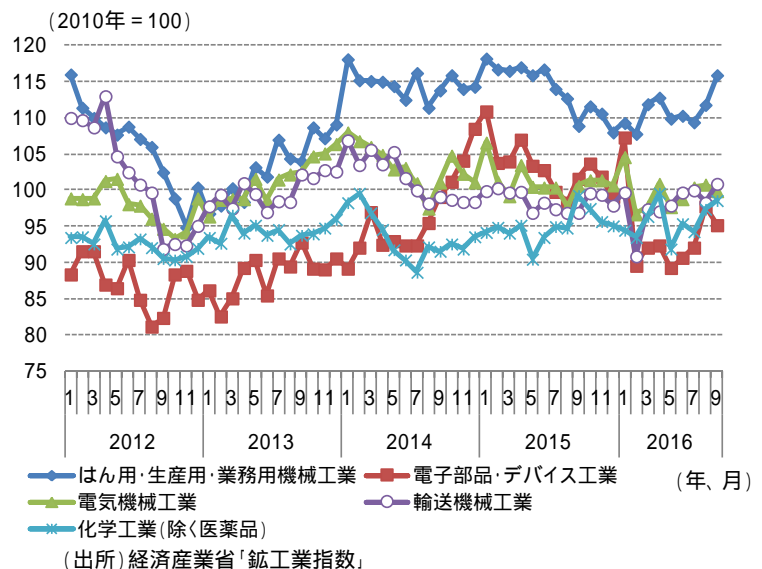
9月の生産動向を業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械工業、輸送機械工業、化学工業(除く医薬品)などは上昇した(図表2)。なかでも、はん用・生産用・業務用機械工業は、2か月連続で上昇して2015年6月以来の高い水準となり、2015年後半以降の低迷から持ち直す動きがみられている。他方、8月に大幅に上昇した情報通信機械工業と電子部品・デバイス工業のほか、金属製品工業、電気機械工業などは低下した。

財別では、半導体製造装置などが好調だった資本財(除く輸送機械)は前月比+2.1%、鉱工業生産の5割を占める生産財は同+0.4%、乗用車などが好調だった耐久消費財は同+0.5%とそれぞれ上昇した。他方、非耐久消費財は、モイスチャークリームなどを中心に前月比-0.3%と低下し、建設財は同-2.8%と低下した。

図表1 生産・出荷・在庫の推移



図表2 業種別の生産動向



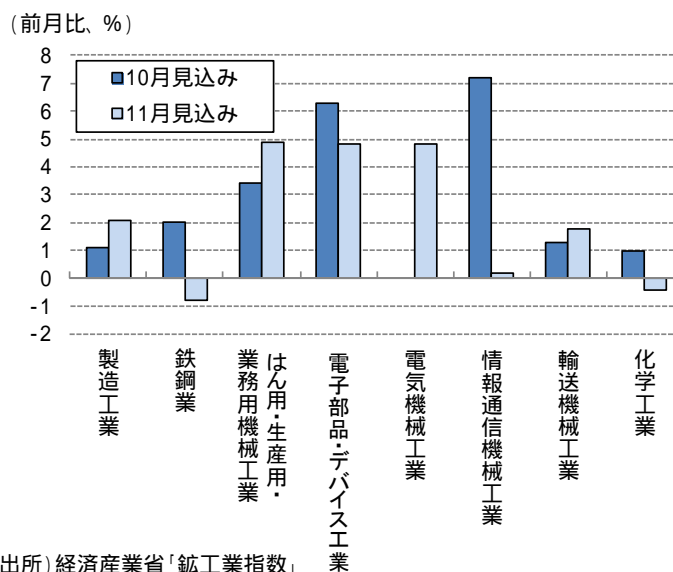
今後の見通し～製造工業生産予測調査

10月の製造工業生産予測調査によると、10月は前月比+1.1%、11月は同+2.1%と上昇が続く見込みとなっている(図表3)。

業種別にみると、このところ生産指数の上昇が続いている、はん用・生産用・業務用機械工業は、10月は前月比+3.4%、11月は同+4.9%と上昇が続く見込みとなっている。また、電子部品・デバイス工業は、10月は前月比+6.3%、11月は同+4.8%と高い伸びが見込まれている。予測と実績の乖離が他の業種と比較すると小さい傾向がみられる輸送機械工業は、10月は前月比+1.3%、11月は同+1.8%と上昇する見込みとなっている。このほか、10月は横ばいであるものの、11月は前月比+4.8%と上昇が見込まれている電気機械工業など、11月にかけて上昇傾向で推移すると見込まれている業種が多い。

もっとも、はん用・生産用・業務用機械工業や電子部品・デバイス工業などでは実績が予測を下回る状況となっており、当面はこうした傾向が続く可能性が高い。このため、10月の鉱工業生産指数の伸びは、製造工業生産予測調査の結果を下回ることになるだろう。

図表3 製造工業生産予測調査による今後の見込み



ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。